

海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

“ 信濃丸宛感状(写) ”



「信濃丸」宛感状(写)
制作年：明治末～大正期
66.0cm×106.5cm

海軍は日露戦争において無線電信機を全ての艦船に配備しましたが、商船に私設無線電信局が設置され無線交信が始まったのは、それから3年後の1908(明治41)年です

「敵艦隊見ゆ」
敵艦隊を発見した仮装巡洋艦「信濃丸」は第一報を打電。

1905(明治38)年5月27日早朝、「信濃丸」は長崎県の五島列島西方を哨戒航行中にロシアのバルチック艦隊を発見し、無線で知らせました。この日本海海戦での功績によって、連合艦隊司令長官東郷平八郎(1848～1934)から感状を授与されました。

常設展示中の感状の写しは、菊と桜の時絵が施された黒漆塗りの額に英訳と並んで収められています。この写しの来歴は不明ですが、国文学者である芳賀矢一(1867～1927)の随筆集『筆のまにまに』(1915年発行)に、「階段の前に感状が英語を添えて掲げられていた」と、台湾行き「信濃丸」船内の様子が書かれた一節があります。

さらに当時配られていた台湾航路の絵葉書には、原本ではなく写しが感状として掲載されていることから、船内に飾るために新たに制作されたものと考えられます。原本は長らく「信濃丸」艦長の遺族が所有していましたが、近年当館に寄贈されました。

日露戦争後、貨客船に復帰した「信濃丸」は米国航路を経て、台湾航路(基隆神戸線)に就航。売船後は蟹工船や復員軍人の輸送船などで活躍し、1951(昭和26)年に廃船となりました。

「信濃丸」は船歴が長く、現役時の資料が残存しています。常設展示室ではほかに、壁面が鏡張りとなっている珍しい半身の大型模型(縮尺48分の1)と、船内で使用していた椅子を展示。椅子の背もたれにはNYKの社章が彫られています。

問い合わせ

日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
- 臨時休館日：ウェブサイトでご確認ください

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の提示で入館無料)
- ウェブサイト：<https://museum.nyk.com>